

笑顔とあいさつで つながる交流



高田地区のとある一軒家の前に、平均年齢約89・1歳、大正、昭和、平成、令和の4つの時代を過ごしてきた年代の方々が集う憩いの場所があります。

田園を眺めながら楽しそうにお話をしている皆さんは、実は、観光客の方にパンフレットを配り、多古町をPRしているのです。

今回はその素敵な笑顔で町をPRしている皆さんにお話を伺いました。



(写真左から) しばた よしこさん(90歳) 柴田 好子さん(90歳) 並木 みちさん(85歳) 並木 百合子さん(83歳) 依知川 すみさん(90歳) 並木 えいこさん(90歳) 依知川 ちよさん(95歳) 宇井 きよさん(91歳)



元気のもと

この地域は、道の駅多古にきた観光客の方がツアーで通ることがあります。みんなで家の前に集まっていると、よく声をかけられるんです。とてもうれしい気持ちになります。

特にみんなで何日に集まるということは決まっていますが、最近新型コロナウイルスの影響で集まれなくなってしまう寂しいですね。

みなさんでお話することが元気のもとで、長いときは一日中お話をしていましたね。閉じこもっていると、健康にも良くないですが、ここに集まれば大丈夫です。それと、ここから見る景色も大好きなんです。

多古町のPR

観光客の方に道を探ねられたとき、分かりやすく伝えるために、柴田好子さんの息子さん(柴田)が案内板を作りました。また、多古町をいろいろの人に知ってもらいたくて、観光客の方にはパンフレットを渡しています。これを渡すと「こんなにいいものをもらってもいいんですか。」という反応が返ってくるんです。喜んでもらえるのがうれしくてね。



人とのつながりが楽しくて

人と会うときには、あいさつが大切になっています。最初は言葉が通じなかったけど、近くのアパートに住んでいるら、6人の若い外国人の方が「おばさん、こんにちは。」って言うてるようになってきた。一人ずつあいさつしてくれからうれしくて。そういう交流ができて楽しいです。

ある日、外国の観光客の方が自転車から降りて、こちらに近づいてきたときがあったの。「どちらから」と聞くと、「ベトナム」って言いながら一緒に写真を撮ってくれたんです。そのあとに案内人の方がその写真を届けてくれたんです。うれしかったですね。



笑顔は世界共通

広大な田園風景を見つめながら皆さんが笑顔で会話を続けている様子を見て、観光客の方がなぜよく話しかけるのか分かった気がします。言葉が通じない外国の方でも、笑顔は世界共通です。話をしている皆さんの笑顔を見ると、こちらも自然と幸せな気持ちになります。

戦後の日本を生き、悲しみも味わい、乗り越え、そして苦しんだ以上にたくさんの方の幸せをみんなで作ってきた、この優しくどこか心強い笑顔が魅力的で、お話を伺っていると胸がいっぱいになりました。

周りの人にも笑顔を届けることができる人たちが。これからもその笑顔絶やすことなく、輝き続けていくことでしょう。

